

草花検定実施への研究と準備 II. 第1回恵泉草花検定の実施と評価

宮内 泰之(人間社会学部人間環境学科)

山 浩美 (非常勤講師)

丸山 美夏(園芸教育室)

浅岡みどり(非常勤講師)

小澤 文子(非常勤講師)

西村 悟郎(非常勤講師)

Conduction of the First Plant Material Identification Test

MIYAUCHI Yasuyuki, YAMA Hiromi, MARUYAMA Mika,
ASAOKA Midori, OZAWA Ayako, NISHIMURA Goro

Abstract

The first identification test for the names of plants used in flower gardens was conducted on March 23, 2013 at Keisen University. The examination of fourth and fifth grade plants of summer to fall were conducted. The fourth grade contains 40 and the fifth grade contains 20 plants both with Japanese names. Total number of applicants were 23 and 20, include 9 students, took the examination. 5 took for fifth and 4 passed, and 15 took for fourth and 14 passed. The results of the first test was examined.

1. はじめに

昨年度(2011年度)は当プロジェクトの一年目として、草花検定の等級および出題内容の検討を行い、等級を5-1級とすること、また各級の出題内容およ

び配点等を決めた。そして、決定事項の適正を試すために、学生および公開講座受講の社会人を対象に、5・4・3級について検定試験のトライアル(試行)を行ない、実施上の資料を得た(西村他、2011)。

本年度は、これらの結果を基に、下記の手順を踏みつつ第1回恵泉草花検定を実施した。

- 1) 草花検定の実施内容の決定と問題作成
- 2) 検定実施概要の決定
- 3) 広報と検定実施上の諸手続き
- 4) 検定の実施とその結果と分析

2. 出題内容の検討と問題作成および写真収集

1) 出題内容の検討

草花検定(5-1級)の実施内容を昨年の決定に準じて、第1表のように決めた。検定は植物が開花する季節によって①春季と②夏一秋季の2季に分け、春季開花の植物は9月に、夏一秋季は2-3月に実施することとした。各級の認定については、2季とも合格した者について当級を認定し、1季を合格したものには通知書を送付することとした。初年に実施する2季については5・4級のみとし、年毎にひとつずつ上級を加えて実施することとした。

第1表 草花検定各季5-1級の出題内容

級	植物数	出題内容	出題数	合格の基準
5	20	和名	15	30点満点で90%以上 (和名2点)
4	40	和名	25	50点満点で90%以上 (和名2点)
3	60	和名、科名	30	120点満点で85%以上 (和名・科名各2点)
2	70	学名、和名、科名	40	320点満点で80%以上 (学名4点、和名・科名2点)
1	110	学名、英名、和名、科名	40	400点満点で80%以上 (学名4点、英名・和名・科名2点)

第2表 第1回恵泉草花検定夏－秋季5・4級の出題候補植物
(1-20番が5級で、4級は21-40番が加わる)

番号	和名・園芸名・通称名	番号	和名・園芸名・通称名
1	アゲラタム、オオカッコウアザミ	21	アフリカン・マリーゴールド、 マンジュギク
2	アサガオ	22	オジギソウ
3	インパチエンス、 アフリカホウセンカ	23	観賞トウガラシ
4	オシロイバナ	24	キキョウ
5	カンナ	25	キク
6	キンレンカ、ナスタチウム	26	キバナコスモス
7	コスモス、アキザクラ	27	グラジオラス
8	コリウス、キンランジソ、 ニシキジソ	28	ケイトウ
9	サルビア、ヒゴロモソウ	29	シュウメイギク
10	シキザキベゴニア	30	宿根フロックス、 クサキョウチクトウ
11	センニチコウ	31	ススキ
12	ダリア、テンジクボタン	32	ゼラニウム
13	トレニア	33	ハツユキソウ
14	ニチニチソウ	34	ヒガンバナ
15	ハナスベリヒユ	35	フウセンカズラ
16	ヒマワリ	36	ペンタス、クササントンカ
17	ヒヤクニチソウ	37	ハウセンカ、ツマクレンアイ、 ツマベニ
18	ブルーサルビア	38	ホトトギス
19	フレンチ・マリーゴールド、 クジャクソウ	39	ムギワラギク
20	ペチュニア	40	メランポジウム

2) 出題候補植物の選定と検定の実施方法

出題候補植物の選定に当たっては各級にテーマを設け、それにふさわしい植物を選んだ。テーマは5級については「これだけは、ぜひ知って欲しい草花 20種」として、園芸を専攻する学生以外にも知って欲しい基本的な

種類を選んだ。4級は「暮らしの中の身近な草花 40種」として、花壇で用いられる一般的な種類を網羅した(第2表)。

2012年度末に実施された第1回恵泉草花検定夏一秋季5・4級における、5級20種類、4級40種類の出題候補の植物を第2表に示した。試験では5級15種類、4級20種類の草花が出題された。試験では原則として開花個体の全体の写真を提示して、その植物名を解答用紙に書くという方法を採用した。合格基準は5,4級とも90%以上を正解とした(第1表)。

3) 写真の収集

試験で提示する写真は、これまでに園芸教育室に収集されていたものに加えて、本検定に関わる教職員が大学キャンパスの花壇を中心に各地で撮影し、園芸教育室に備えてあるハードディスクにその画像を蓄積した。

写真の撮影に当たっては、昨年のトライアルの際に受験者から、写真は花だけでなく葉や植物全体の様子も分かるものがよいという意見があったので、花とともに葉や植物全体の様子がわかるように撮影に努めた。

4) 正式名と実施について

本検定の正式名称を「恵泉草花検定」と決めた。なお、草花検定の実施概要、および広報、手続き書類の作成に当たっては、園芸教育担当者(澤登早苗、樋口幸男、菊地牧恵、君塚亜紀)が加わって進めた。草花検定の実実施計画案は園芸担当者会議および園芸文化研究所企画運営委員会で討議された。恵泉草花検定実施については、6月21日(木)の大学教授会で澤登教授より報告がなされた。

3. 実施概要

2013年1月16日に最終的な実施概要を次のように決定した。

1) 実施日時 2013年3月23日(土) 11:00~11:40

実施日を決めるにあたって、当日午後に大学で実施された農力検定(都市生活者の農力向上委員会主催)に日程を合わせ両検定の受験者の便宜を図った。

- 2)会場 J-202
- 3)担当者 出題者5名、試験監督3名、採点2名、受付2名
- 4)受験料 一般:1,000円、学生:500円 (5・4級共通)
- 5)合格発表 2013年4月1日。ホームページに掲載する。
- 6)合格通知書の発行 合格者には各級の合格通知書を発行する。

4. 広報と手続き書類

第1回恵泉草花検定の広報は次のように行った。また、受験上の手続き書類を次に記した。

1) 公式webサイトおよび学内サイトへの広報の掲載

- (1)公式webサイトに「恵泉草花検定」のページを立ち上げて概要を掲載(2月20日)。
- (2)公式webサイト「大学からのお知らせ」、「大学行事」欄に概要を掲載(2月20日)。
- (3)学内サイト@k「全校向け新着情報」に掲載(3月8日申し込み期限を延期して再掲)。

2) チラシ配布、その他

- (1)チラシを学内数箇所、グリーンライブセンター、恵泉園芸センターに置いた。また、授業および公開講座で園芸担当教員が呼びかけた(2月20日以降)。
- (2)2012年秋の恵泉祭にて、展示された草花名を当てる「この花なあに」を開催し、草花検定の宣伝を行った。
- (3)恵泉女学園中学・高等学校の園芸担当教員(生徒)へのお知らせを行った。

3) 受験上の手続き書類

受験の手続きのための書類として、次の諸書類を発行した。

- (1) 受験申し込み書、 (2) 受験票(要写真添付)、 (3) 合格通知書、 (4) 受験確認票

5. 試験結果と分析

1) 申し込み状況

検定試験の申し込みと結果の内訳は、第3表の通りである。

申し込み者23名のうち約半数の11名を本学学生が占めた。受験当時の学年の内訳は、2年生2名、3年生7名、4年生2名。また、4年生の1名が文化学科である以外はすべて人間環境学科所属であった。申し込みをした学生は、園芸系のゼミやサークルに所属する者や公開講座の受講生がほとんどであった。これらの学生には園芸担当の教職員を通して情報が伝わりやすかったのであろう。従って、それ以外の学生、特に、今回申し込みがなかった1年生や人間環境学科以外の学生からの申し込みをいかにして増やしていくかが今後の課題である。1年生の必修授業である生活園芸Ⅰの授業では草花検定の実施を通知したが、それだけでは不十分であったということであろう。この授業において学生が種から育てる草花はムギワラギクだけである。今後、授業の中で草花の魅力をさらに伝えていくことが、受験生の増加につながるものと考えられる。

一般申込者については12名のうち、2名が男性であった。申し込み者の情報入手先は公開講座と大学公式サイトなどとなっている。草花や花壇に関する公開講座と情報を共有し、草花検定の知名度を今後さらに高めていく必要がある。

2) 受験状況

未受験が3名、そのうち2名が本学の4年生であった。3月下旬は4年生にとって新たな生活がスタートする時期であることから、受験日直前に都合が悪くなる可能性が他学年の学生よりも高かったことが予想される。

試験に関しては、遅刻等のトラブルはなく予定通り行われた。試験時間が4級、5級とも40分であったが、いずれも試験開始後15分程度で全員が解答を終えている様子であった。今後、試験時間の再検討が必要である。

4級は受験者15名に対して合格者14名、合格率は約93.3%であった。5級は受験者5名に対して合格者4名、合格率80%であった。5級は受験者が少なかったため1名の不合格が合格率に大きな影響を与えてしまっている

が、両級とも難易度は高くなかったといえる。両級とも草花の勉強を始めて間もない者の受験を想定しており、草花検定のすそ野を広げるという点からも、妥当な合格率であったと考えられる。

第3表 試験結果

(単位:人)

級	申込	合格	不合格	未受験
5	5(3)	4(3)	1(0)	0(0)
4	18(8)	14(5)	1(1)	3(2)
合計	23(11)	18(8)	2(1)	3(2)

※カッコ内は本学学生の人数

7. 出題候補の草花と受験生情報のデータベース化

今後、草花検定を実施していく上で、出題候補の草花と受験生の情報のデータベース化を図ることは必要不可欠である。

出題候補の草花については、現在までのところ5-3級までが確定しており、2級、1級についてもほぼ出揃ってきている。今後、すべての級において正式な和名を確定し、別名、英名、学名等についても公表して受験者の混乱をなくすよう努める必要がある。また、候補種の入替え、APG分類体系への対応、通称名の変化への対応、試験に提示する写真の有無の一覧などについても視野に入れたデータベースの構築を目指している。

受験生の情報については、本試験は各級の春季と夏-秋季との2季とも合格した者に対して認定証を発行するという特殊性がある。したがって、認定証を受取する権利のある受験者を漏れの無いよう、データベースによって随時確認する必要がある。

受験生の情報はマイクロソフト社のAccessを利用してデータベース化している。今後、出題候補の草花についても同様にデータベース化を図り、一元管理していく必要がある。

参考文献

1. 西村悟郎・山浩美・丸山美夏・浅岡みどり・小澤文字子 2013 草花検定実施への研究と準備 『園芸文化』9号 恵泉女学園大学: 109-118

以上